

目標達成計画

作成日：平成 28 年 3 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	日々のその人らしい暮らしを実現することが出来るように支援したいが、介護度が全体的に上がり職員側からの介助する割合が多くなり、職員側のペースになってしまう事がある。	利用者様を生活の主体者としてとらえることができるように、関わりを持つことが出来るようにする	1.利用者様の食事・入浴・排泄・余暇の生活サイクルを見直し、個々のペースで過ごして頂けるようにする 2.利用者様との関係性を深めることが出来るように居室担当職員が、より重点的に関わりを深めることが出来るように心掛ける。	12ヶ月
2	27	個別の記録と実践への反映に関して、食事・入浴・排泄・訪問診療結果・家族面会等の記録は出来ているが、細かな部分での利用者様の様子や対応変化後の経過を見ていく部分の記録が出来ていないことがある。	利用者様の細かな変化の様子の記録や、決定事項及び診療後の薬の変更後の経過記録をすることが出来るようにする	1.各ユニットフロア責任者で、再度記録の大切さを話し合い情報共有し、意識レベルの統一化を図る 2.各ユニットフロア責任者が中心となり、各ユニット職員に対し、随時指導をすると共に、適切に記録が行えているかも後追いでチェックをし、必要時に適宜指導をする。	12ヶ月
3	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映に関して、面会の機会が多いご家族様は、随時利用者様の近況をお伝えすることが出来ているが、特に状態変化が無く、お忙しく面会になかなか来れないご家族様との情報交換が、月1回の施設からのメッセージカード程度となる場合がある。	なかなか面会に来れない家族様にも、適切な情報提供が定期的に行う事が出来るようにし フェイストウフェイスで、家族様の意向も併せて伺う事が出来るようにする。	1.家族との担当者会議の頻度を、現在よりも無理のない範囲で多くする。 2.家族様が来所された際は、ユニット職員が責任者を呼ぶようにし、責任者が直接家族様に近況報告及び意向確認ができるようにする。	12ヶ月
4	45	入浴介助時において、皮膚状態に異常が無いか観察をし、赤みや掻き傷などあった場合に看護師に連絡し、軟膏塗布などの対応を行っているが、赤みや掻き傷などに気が付かない場合がある。	発汗しやすい方、乾燥肌の方、掻き傷が出来やすい方など、利用者様の個々の状態を職員皆が把握し、看護師と連携してこまめな観察と対応をする事が出来るようにし、早期発見早期対処に繋げたい。	1.入浴介助時や排泄介助時に、皮膚状態を注意し観察し異常がみられた場合は、看護師に報告し記録に残し申し送りする。 2.利用者個々の状態把握に努め、ユニットフロア会議やカンファレンスで話し合い情報共有に努める。	12ヶ月
5	7	虐待の防止の徹底に関して、施設内では定期的に虐待防止に関して施設内勉強会を行っているが、家族より高齢者施設虐待のニュースが多くなり、家族からも運営推進会議時に、その話題の質問があり、少なからず不安な気持ちがある。	高齢者施設職員での虐待事件が多くなっているため、利用者様、家族様に安心して施設をご利用していただける環境整備をする。	1.定期的に高齢者虐待防止の施設内勉強会を実施する。 2.職員ストレスマネジメントとして、随時職員と面談を実施する。 3.利用者様及び家族様に安心して頂けるように、運営推進会議で対策実施状況を報告し、その議事録を全家族様に配布する。また、面会時も不安な点や意向など随時	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。